



2009.5.1—12  
牟田義仁「since 1988 lookin' for the face」

2009.5.14—24  
星玄人「Hoshi haruto street photo exhibition 2 "Osaka"」

2009.5.26—6.7  
梁丞佑「青春吉日」

2009.6.9—21  
豊原康久「Street 1990—2009」

2009.6.23—7.2  
安掛正仁「赤電車」

3  
third district gallery

## ストリートスナップが僕らの すべてだった (3rddg2009初夏の企画)

サードディストリクトギャラリーは「写真」にもう一度真摯に向き合ってみたくと考えています。

ストリートという言葉に懐かしさを感じはじめたのはいつ頃からなのだろうか。カメラを持った男子は何一つ疑問を持たずにストリートに立てば良かった。僕らの写真の経験はスナップショットからはじまった。写真の発明からほんのわずかな時間で写真機がもたらす視覚の幻惑を人は知ったに違いない。絵描きは自然らしさの探求心からカメラを手に入れ、その表出する不自然さを目の当たりにした。写真は絵解きから遠ざかっていく。かつて写真機がもたらした不自然さの発見は僕らの体にはすんなりフィットしていたはずなのに、ストリートが無くなっていくスピードに紛れて、芽生えだした写真の音律にさえ不感症になっていった。それでも僕らはストリートでスナップショットを繰り返していく。5つの連続写真展。



2009年5月31日(日) 19時～ [ 梁丞佑 × 星玄人 + タカザワケンジ (編集者) スライドショーとトーク ]  
2009年6月19日(金) 19時～ [ ティーチン! 豊原康久 × 金村修 ]



2009.5.1—12

牟田義仁「since 1988 lookin' for the face」

写真学校に入ってからすぐの授業。見知らぬ人に至近距離でレンズを向ける恐怖と緊張を今でもはっきりと覚えている。

1969年福岡県生まれ。1991年東京総合写真専門学校卒業。写真展「雀色時」「東京八景」「眠レバ里」「帰去来」「事物の事日記」など。



2009.5.14—24

星玄人「Hoshi haruto street photo exhibition 2 "Osaka"」

あの夜の暴動以来、感染した大阪風邪が体から抜けきらない。人間の人生の腐臭を嗅ぎ分け街に近づいていく。

1970年 神奈川県生まれ。2000年現代写真研究所卒業。2007年初の写真集「街の火」(ガレリアQ刊)。

3  
third district gallery

動きながら見る、撮る、繰返す、瞬間、偶然、遅滞、写真に写ったモノ、見たものから見えたものへ、それから構成…スナップ写真を連続して展示します。取りかえしのつかない経験と失いたくない大切なものを起点に「自分のまわりを夢中で撮った」梁丞佑氏の「青春吉日」と第19回木村伊兵衛賞受賞作の「Street」以降も、途切れることなく撮りかさねられた、豊原康久氏のすれちがいさまの東京のスナップ「Street 1990-2009」を中心に企画しました。



2009.5.26—6.7

梁丞佑「青春吉日」

5月31日(日) 19時～[梁丞佑×星玄人+タカザワケンジ(編集者)スライドショーとトーク] 要予約、料金500円。

仲間が一人死んだ。

首吊り自殺だった。

奴が死んでも何ひとつ変わったことはない。

仲間達はもう奴のことを忘れていく。

そして俺も奴のことを忘れていく。

奴の顔が見たくて写真を探してみた。

一枚もなかった。

自分が大事だと思っている仲間だったのに。

奴らを撮り始めた。

自分のまわりを夢中で撮った。

もう失われないように、作品の中に閉じ込めてしまおうと。

そしたら自分が見えてきた。

まじめとは言えないけどそれなりに格好良い人生を歩んで行く。

大好きな仲間達と一生一緒にいたい。

日本、韓国(2003—2006) 梁丞佑

1966年韓国生まれ。1996年来日。2000年日本写真芸術専門学校卒業。04年東京工芸大学芸術学部写真学科卒業。1906年同大学大学院修士課程修了。



2009.6.9—21

豊原康久「Street 1990—2009」

6月19日(金) 19時～[ティーチン! 豊原康久 × 金村修] 要予約。

…(略) これらの写真が、スナップ・ショットという技法によって撮られていることである。スナップ・ショット—即興的撮影、偶然の瞬間を捉えること、小型カメラで自らが動きつつ撮影すること。このようなスナップ・ショットの性格の中には、より自由な視点の選択の可能性といった以上の契機が孕まれているように思える。

たとえば自らが動きつつ撮ることは、およそ凝視するという意味での見るということからはほど遠い行為である。しかも、それが繰り返されるスナップ・ショットにおいて、見ることはつねに遅滞し続けることになる。もしスナップ・ショットが偶然の瞬間を捉えることだとすれば、その行為の最中において撮影者は、自らが捉えた瞬間をけって見ることがない。それは偶然の瞬間を捉えるというよりも、定義上偶然でしかありえない。撮影者は、一定の過程を経たのち写真を見ることによるのみ、自らが捉えた瞬間を結果として知る。すると、ここでの見ることは、すでに見たものを再び見るのではなく、いわば見ることの遅滞を見ること、自らの行為の痕跡を見ることにほかならない。

では、ここに示された写真に先行してその基底を形作っているのは、街路を歩きまようといった行為なのだろうか。そうではないだろう。スナップ・ショットという技法において目的的なのは、つねに撮るといふ行為であり、そのほかのことはない。スナップ・ショットという技法に内在する。撮ることと見ることの隔たりに潜む遅滞こそが基底であり、それが隔たりを歩きまようといった行為として現実化し構成するのである。(略)…

隔たりの構成/豊原康久写真集『Street』(1993年11月刊) 添付テキストより copyright ©上野修 ueno osamu all rights reserved

1957年神奈川県生まれ。1980年日本大学法学部卒業。1986年東京写真専門学校卒業。1994年第19回木村伊兵衛賞受賞。『VANISHING LIGHT』(2003.09 ワイズ出版)



2009.6.23—7.2

安掛正仁「赤電車」

赤電車=終電車のことです。終わりと始まりの時間帯。終電車間際、その一日の自分の殻をぬいた悲喜こもごもな人間模様の交錯する場所。他人事でありながら自分のことのように置き換えて見てしまう。そして、つい撮影してしまうのです。

1969年東京生まれ。1991年より潜水活動を通して写真と出会う。以後、海中、陸上とフィールドを問わずに撮影を行なう。2009年サードディストリクトギャラリーの立ち上げに参加

サードディストリクトギャラリー

160-0022 東京都新宿区新宿3-8-9 新宿Qビル4F tel&fax 03-5269-5230

open 13:00-20:00

